



「けだかきこころ」

Since 1948



「高い志・純粋な精神」校歌の一節より

(文責 野畑了裕)

千歳高校国際流通科

流通科通信

Vol. 3 2026.9.4 (開校77周年(78年目) 商業科設置70周年(国際流通科学科転換 27周年))

千高祭 お疲れ様でした。3年生の見事な勇壮！

7月の学校祭の事で、すこし時間が経ってしまいましたが、皆さんお疲れ様でした。1年生は初めての学校祭、2年生は初めての企画展、3年生は最後の学校祭と学年ごとに意識したことがあったのではないのでしょうか。特に3年生の入賞はとても素晴らしかったです。それ以上に「さすが3年生」という場面が多くあり、下級生も見習ってもらいたいです。行事をただ終わったでは済ませず、「何を学べたか?」「何を生かしていくか?」を検証してみましょう。

学校祭(文化祭・学園祭)の準備期間は、単なるイベントの計画にとどまらず、社会に出てから必要とされる「協調性」「問題解決能力」「自己管理能力」などの重要なスキルをまなべたはずです。少し振り返ってみてください。



●組織を動かす「協働」の力や他者への共感と多様性の理解全員が同じ熱量で取り組めない状況(部活や受験勉強との両立など)の中で、お互いの事情を思いやり、歩み寄り他者との共感の姿勢が身に付きましたか?。

●リーダーに頼り切るのではなく、自分の役割が周りの部門とどう繋がっているかを把握し、自主的に連携を深める力が養われましたか?

●意見の対立から生まれる調整力、出し物を決める際など、異なるアイデアを持つ仲間と話し合い、互いに納得できる「妥協点」や「新しい解決策」を見つけ出す対話力が育ちましたか?

●形のないものを生み出す「実践的スキル」アイデアを具現化する創造性限られた予算や資材の中で「来場者をどう楽しませるか」を追求し、段ボールや装飾を工夫してクラスのアイデアを形にする発想力が鍛えられましたか?。

●計画性と進捗の管理「当日に間に合わせる」という明確な締め切りに向けて、逆算してスケジュールを立て、トラブルが起きても柔軟に作業を修正していく力の基礎が身に付きましたか?

●個人の成長とマインドの変化タイムマネジメント(行事と勉強の両立)
放課後の準備で時間が制限されるからこそ、通学時間などの「スキマ時間」を見つけて集中して勉強する、といった時間の有効活用法や生活のメリハリが身に付きましたか?



すべてに言えることですが、主体的な行動が生む達成感人任せにせず自分から全力で準備に関わることで、「やり切った」という強い充実感や自己肯定感を得られ、仲間との絆もより深まります。学校祭の準備は、勉強だけでは得られない「社会の縮図」を体験し、自分自身を大きく成長させる貴重な学習の場となります

このあと3年生も含め、課題研究や体育祭などにも生かせることが多くあると思います。参考にしてください。



裏へ続く

(クラスアート 左から1-1, 1-2, 2-1, 2-2, 3-1, 3-2)

「人ごと」から「自分ごと」へー 今夏二つの災害から学ぶ、高校生の私たちにできること

今夏、最大震度7を観測した「令和8年熊本地震」や、記録的豪雨となった「千葉豪雨」が立て続けに発生しました。ニュース映像を見てショックを受けた人も多いはずですが、しかし、これを遠くの出来事で終わらせてはいけません。災害はある日突然、私たちの当たり前の日常や尊い「命」を奪いに来ます。二つの災害は、私たちが今すぐ起こすべき「備えと行動」の教訓を示しています。

突発的な熊本地震では、家屋や家具の倒壊から身を守る「事前の備え」が生死を分けました。一方、道路の冠水が相次いだ千葉豪雨では、被災者の約半数が「浸水想定区域の外」だったといえます。「ハザードマップの外だから大丈夫」という思い込みを捨て、危険を感じたら「早めに行動する」ことがいかに重要かを物語っています。では、高校生である私たちには何が求められているのでしょうか。私たちは決して、守られるだけの存在ではありません。体力的にも精神的にも、いざという時に地域や家族を支える「貴重な若い力」です。実際に避難所などでは、スマホを使いこなして正しい災害情報を集めて共有したり、高齢者や小さな子どもの避難をサポートしたりする高校生の力が大きく期待されています。

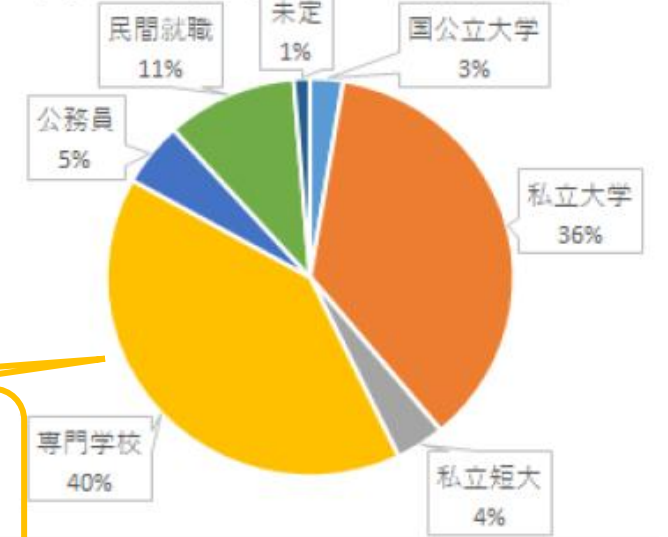
まずは「自分の命は自分で守る」という強い意識を持つこと。その上で、学校の防災訓練に真剣に臨み、家族と避難場所を話し合うといった小さな一歩を踏み出してみましょう。この先何が起こるかわかりません。この夏に起きた災害を自分ごととして捉え、命を救うためのアクションを今、ここから始めてみませんか。

進路状況について(過去2年振り返って・・・)

高校生活を送る君たちにとって、最も重要ともいえる進路です。すでに3年生の一部の生徒はもう本格的な受験手続きが始まっていることでしょう。友達と一緒にでもなく、家族と一緒にでもない、自分にしかない進路を考え決めることは容易な事ではありませんが、まさに決断をすることは自立でもあります。決めるに当たってはいろいろ悩み考えることはとても大切です。保護者や先生方の力を借りながら、熟考し自身の力を育む活動に取り組んでいてください。

※民間企業・公務員合わせて12名(16%)が就職。
国家公務員・北海道職員・北海道警察などの採用を得ています(多くが複数受験、合格を得ています。)

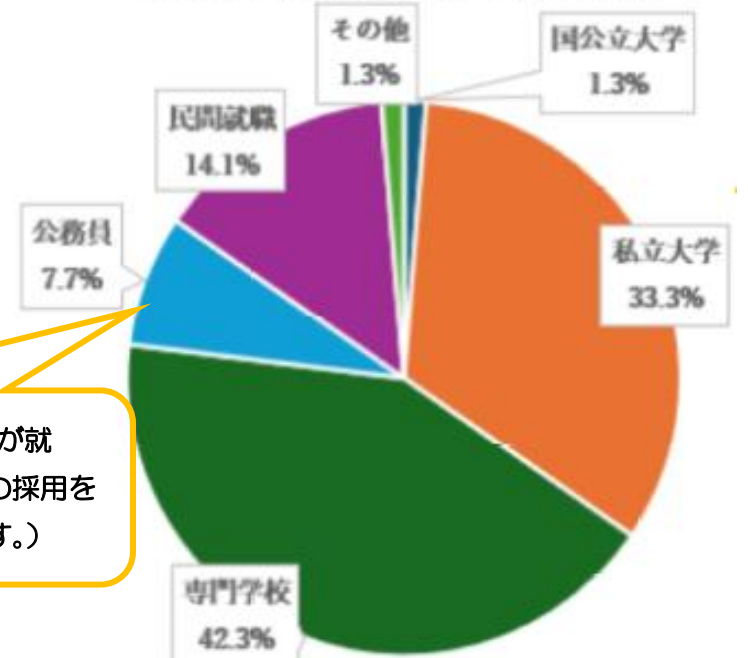
令和6年度卒業生進路決定状況



過去2年の本校の進路実績を載せておきます。一言で言えば「可能性を広げ、伸ばし進めているか」がポイントです。過去の先輩の実績をみて自分の進路を考えることは重要ですが、特に何も考えずいける学校を選んでしまうことがないように、自分のことをよく考え、自分のための進路を選んでほしいと思っています。情報や知識がないとなかなか受験機会のない国公立大学に進んだ生徒も毎年出ています。どうして国公立大学がいいと言われているのか？偏差値や人気が高い大学はどうしていいと言われるのか？なぜ？がそこには理由もあります。どの進路にもメリット、デメリットは存在します。よく知ったうえで判断できる力も一緒に育ててください。

※民間企業・公務員合わせて17名(21.8%)が就職。
国家公務員・北海道職員・北海道警察などの採用を得ています(多くが複数受験、合格を得ています。)

令和7年度卒業生決定状況



活躍する流通科生徒① 水泳インターハイ出場 1ー1 酒井桃花さん

すでにホームページでも紹介されていますが、酒井さんは「CANSAY 千歳」に所属し、中学生時代から北海道のジュニア水泳界で活躍してきました。今回高体連の全道大会で女子200m平泳ぎで第2位(準優勝)この結果により、インターハイへの出場権を獲得しました。女子400m自由形でも第3位と入賞もしています。1年生ながら2種目で表彰台に登る快挙を達成し、千歳高校の代表として全国大会(インターハイ)へ駒を進め、8月13日～16日に滋賀で行われたインターハイに出場しました。本当にお疲れ様でした。今後の活躍に期待しています。



活躍する流通科生徒② 商業クラブ全国大会出場 BSC

北海道千歳高等学校のビジネススタディクラブ(BSC)は、8月26日に安達学園札幌観光ブライダル・製菓専門学校で実施された「北海道高等学校商業クラブ研究発表大会」で総合賞を受賞しました。これに伴い11月17日・18日に東京で行われる全国大会への出場権を得ることができました。メンバーは、3年:辰川さん・住野谷さん・早川さん/2年:勝木さん・志和さん/1年:服部さん 計6名で活動をおこなってきました。学科を超えて調査研究を行っています。なかなか皆さんに伝える機会が多くありませんが、とても意義のある研究発表をおこない、実践力のある活動を多く行っています。ぜひ、多くの生徒に知ってもらい興味をもち仲間が増えてくれればと願っています。

今年度の研究は、全国の商業高校生が直面する資格取得(全商検定)の課題に着目し、生徒自らがAIプログラミングを駆使して学習支援プラットフォーム『Compath(コンパス)』を構築した実践報告です。

商業科の教科書(情報処理やマーケティング等)の理論をベースに置き、独自開発した180本のプログラムとコラム執筆を連動させ、NPS(顧客推奨度)、LTV/CACといった定性・定量データを用いて効果を検証しました。また、アクセスの伸び悩みに対しSEO対策(検索エンジン最適化)を施し、問題解決を図りました。テクノロジーによる課題解決と、商業教育の理論に基づいたアプローチが評価に繋がったと考えております。(ホームページより)



参考に発表資料は、QRコードを挙げてあるのでぜひ見ていただければと思います。(プレゼンテーション資料の作成の仕方や手順など、今後の参考になります。)

